



発行者

滋賀県PTA連絡協議会  
滋賀県PTA安全会  
会長 松浦 洋子  
制作 広報 委員 会  
印刷 竹田 騰 写 堂



# みずいろ

滋賀県PTA連絡協議会広報紙

## 大会宣言(抜粋)

昨年の夏、大津市内の中学校における「いじめ問題」が大きく報道され、重大な社会問題となっています。その中で、私たちの想像をはるかに超える深刻な出来事が起こっていたことに衝撃を受け、不安と驚き、そして恐れすら感じました。私たちPTAは今回の出来事により、今、何をなすべきなのか、また、何ができるのかを、あらためて問いかけられていると感じます。

今こそ、子どもたちが健やかに、たくましく育っていきけるよう、保護者と教職員が、信頼関係をより一層深めることが大切です。そして「いじめ」をはじめとする様々な課題に、両者が連携して取り組んでいくことが強く求められています。滋賀県のPTA会員13万人の知恵と力を結集して、みんなで取り組みを考えていく姿勢が大切なのではないでしょうか。課題は簡単に解決しません。だからこそ、一過性の議論に流されることなく、きちんと向き合うことが大切だと信じます。

日頃は、滋賀県PTA活動に際し、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。ここ、栗東市「さくら」にて、盛大に滋賀県PTA大会が開催されますことを、大変嬉しく思っています。

さて、腰を痛めて不自由な生活をしていた私に、周囲の人の温かい支援をいただいたという体験を通じて、人と人との絆がいかに大事であるかを感じました。

一昨年、甚大な災害に見舞われました東北の方の支援をさせて頂くことすべて、人と人との関わりから生まれ、その中で力強い絆がでるということを知りました。そのことは、PTA活動でも同じことであると思っています。大変なことから目をそらさず、支援し、協力していくことが、本当に大事であると思っています。

昨年、一人の少年が自ら尊い命をなくした事実を無駄にすることなく、人と人との絆の中で、二度とこのようなことが起こらないように、共に手を携えてまいりましょう。



絆を感じて

会長  
松浦 洋子

第55回

滋賀県PTA大会

平成24年12月8日

栗東芸術文化会館さくら  
(2・3面に関連記事掲載)



3年前、栗東市の中学校給食が廃止になり、「週一回自分で弁当を作る子どもを育てたい」という校長先生の提案から始まったPTAの取り組み。そこから生まれた数々の感動やエピソードを発表して頂いた。

23年度は、子どもの弁当作りを応援することがPTA総会で承認され、まず本部役員有志が取り組んだ。

メニューは、農協から取り寄せた栗東産の旬の野菜を中心に考えた。その後、学年ごとに有志を募り、朝七時に校長先生が調理室を開けて、マイ弁当作りをする子どもたちを、PTAがサポートした。この取り組みが新聞で取り上げられ、保護者や地域の中で明るい話題となり、応援の声が増えた。



実践発表

「広げれ！弁当作りの輪!!」

「子どもの自立と感謝の気持ちを育むために」

栗東市立葉山中学校PTA

11月のひびきあい活動では「弁当作りの日」の提唱者である竹下和夫先生を迎えて



えて講演会を開催した。講演の内容は「親は絶対に手伝わない」という条件で材料購入、調理、弁当詰め、片付けを自身がすること、子どもの育ちを図るというものである。

マイ弁当作りは、全国に広がっており、葉山中学校は県内で2番目の実践校となる。年末には、校長先生と教頭先生が、「ばら寿司」「鶏どり弁当」、煮物や揚げ物などに挑戦した。その後、部活動、学級、学校へと子どもたちの弁当作りの輪が広がった。

卒業前の3年生のクラスが環境整備作業の炊き出しで、おにぎりや豚汁を作り、参加者に振る舞った。

その後、感謝弁当作りに取り組んだ。笑顔あふれる和やかな調理室。この思い出は、子どもたちの心に焼きついているだろう。

24年度は、パナソニック研究財団からの助成を受け、メディア活用による食の自立と、感謝の気持ちの総合的な食育の推進。そして「学年おにぎりの日」を設定し、ご飯をテーマとした食育授業が展開された。

また、クラスごとに「おにぎり作り隊」を結成し、「農業を守る」「食文化を守る」「健康を守る」の三つが基準の「おにぎり審査」のもと、考案したおにぎりを作り競った。子どもたちは、おにぎり一つに深い意味を見いだした。「おにぎり弁当の日」に子どもたちが持ってきたのは、小さいときに作ってもらった、いつものおにぎりが多かった。



生活の中で、文化の伝承が親から子へなされている事を認識した。このような取り組みに、多くの保護者が感謝の思いを寄せている。作る楽しさ、食べる楽しさ、弁当作りの輪が、ほかの学校にも広がってほしいと感じた発表であった。

自己肯定感の  
育成を第一に

記念講演



明橋 大二 氏

「子育てハッピーアドバイス」の著書でおなじみの精神科医明橋大二氏を迎え、「見逃さないで！子どもの心SOS」と題して、お話しいただいた。

今の子どもをめぐる問題の根っこは「自己肯定感の極端な低さ」が影響していると考えられる。自己肯定感とは、「私は存在価値がある。」「必要と存在なのだ。」と思える感情で、心の土台の部分である。この自己肯定感をいかに育むかが最大の課題だ。自分を大切に思うこと、自分が大事にされているといった実感を持っていない子が、どうしても他人を大事にすることが出来るだろうか。

ぽくなんて「どうせ」と言い出したら、これは「心のサイン」。心の成長は、依存（甘え）と自立（反抗）の繰り返しで大きくなっていく。子どもとのペースで行ったり来たりすることが最も大切だ。子どもの心が自立するには、子どもの頃の甘えがとても大切。十分受け止めてもらった人が安心感をもらい、自分は大事なんだと感じ、自尊心、自己肯定感が育っていく。土台がしっかりしていなければ上には積み

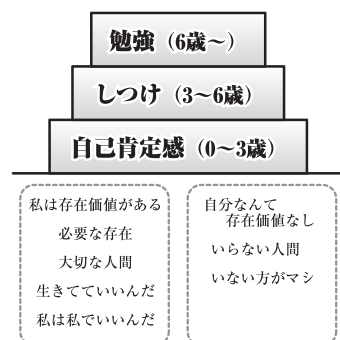
上がらない。

思春期に入る前、10歳くらいまでは、徹底的に甘え（依存）させる必要がある。ところが、「甘やかせ」と「甘やかし」の取違えをしている人がいる。「甘やかせ」とは、情緒的な要求に応えること。子どもがどうしても出来ないことに手助けをするので、他人に対する信頼感という情緒的感覚が醸成される。「甘やかし」とは、「おもちゃを買って」「お金頂だい」などの物質的な要求に対して、言うがままに与えていくこと。これは情緒的要求を満たすことにはならない。子どもの情緒的要求にはしっかり応えるべきで、物質的な要求に対してはきちんと制限をしていくことが大切だ。

自己肯定感を低下させる要因に、虐待や学校でのいじめ、養育者の関わりの希薄さが大きく影響する。

関わりが希薄な子どもに二つのタイプがある。駄々をこねる子は、自分をアピールしてかまってもらえるから心配ない。寂しさや不安から、自分が良い子になつて親から褒められることで安心感を得ようとする子は心配である。良い子は、親か

## こころの土台 自己肯定感



**<子どもの心は、甘えと反抗の繰り返し>**  
甘えていいときに、じゅうぶん甘えた人が自立する

らすれば手がからない。親子の関わりが希薄になる。このような手のかからない良い子の自己肯定感は、良いところだけを褒めてもらっただけでなく、マイナスイ感情も含めて、全てを認めて受け止めてもらえることで高まる。

反抗期になつたらどうか。甘えや依存によつて安心感をもらつたから反抗できるよになつたと考えるべきだ。反抗しただけなら、今までの子育ては正しかったと安心することは、心が健全に成長している証拠。とはいえず、反抗期の難しい子どもとどのようにつきあうか。どのようにつきあうか。

「うるさい」「しね」「ぶつ殺す」「くそばばあ」などこの時期の言葉遣いには心を痛めることがある。そんな時は一種の外国語と捉え翻訳するとよい。「うるさい」「しね」は「かまわないでね」「ぶつ殺す」は「怒つているんだよ」「くそばばあ」は「おかあさん」と訳し心を冷静にして関わることが大切。

《自己肯定感を育てる  
具体的な関わりとして》

○スキンシップと話を聞くこと。…だっこ、おんぶ

○気持ちを含んで言葉に表し返していく（言葉育て）

○「ガンバレ」の一声は相手を選ぶ。「ガンバレ」よりも「頑張ってるね」の声をかける。

○ありがたうの声をかけていく。「ありがたう」の言葉はお礼の言葉であると同時に、相手の存在価値を高める意味がある。子育ての抱き手は母親。母親を皆で支えていくことも大事。

「子が宝なら、母もまた宝」

子育ての中で、子どものプラス面もマイナス面も全てを受け入れ丁寧に接していくことで心の基礎となる自尊感情、自己肯定感がしっかりと醸成され、自立した人間が育てられると言うことを再認識した講演であった。

## 滋賀県PTA連絡協議会

## 園児・児童・生徒24時間総合保障制度からのお知らせ

本制度は滋賀県PTA連絡協議会加盟の国公立（一部私立を含む）の幼稚園・小学校・中学校に在籍されているお子様の保護者の方にご加入いただいております。この制度はお子様の不測の事故によるケガの通院や入院、過失による第三者への損害賠償（対人・対物）に備える制度です。

### 【新規加入手続き】

現在、未加入の方又は、今年幼稚園に入園、小学校・中学校に入学される方は、4月上旬に学校園にて配布していただく「加入依頼書」にご記入、ご捺印のうえ4月26日(金)までにご投函ください。

**【自動更新】**

現在ご加入いただき、今年卒園・卒業される方以外は、自動更新となります。中学校を卒業される方は、本制度が満期終了となりますので、ご加入いただけません。（特別支援学校除く）

【変更・継続停止・脱退】

補償プランの変更、住所、引落口座等に変更ある方は、各学校園より配布される「加入依頼書」に必要事項をご記入・ご捺印のうえ、送付ください。都合により脱退される方や、また県外転出の場合はご加入いただけませんので、4月26日(金)までに下記問い合わせ先へ連絡のうえ更新停止手続きをお願いいたします。

お申込み・お問合せ

滋賀県PTA連絡協議会  
『園児・児童・生徒 24 時間  
総合保障制度』事務局

## フリーダイヤル

**0120-577-415**

受付時間9:30～17:00（土・日・祝日を除く）  
<http://www.shiga-pta.jp/>





## 参会者からの声

(アンケート結果)

### 講演を聴いて

○「子が宝なら母も宝」のお話、独りで子育てに奮闘していたときのことを思い出して、泣いてしまった。子育て＝自分育てだと思っただと。

○甘えさせることと、甘やかすことの違いを、しっかりと教えて頂いた。

○子育ては「手のひらの中の卵」という気持ちが大切という言葉が印象的。

○される母親も褒めてくださったことに、心より感謝。自分の心も認めつつ、我が子も認め、褒め、大切にしたい。

○自己肯定感の大切さ、特に、良いところも悪いところもひっくるめて受け入れることが大事。

### 感想

○荒れた言葉を変換するといふのがおもしろく、来るべき反抗期には、思いだしたい。

○やっぱり来て良かったあ心からそう思った。昨日も、子どもがいじめられたと泣いて帰ってきた。私は、「あんたも悪い。これからは、こうしなさい。」とまさに、禁句を言った。帰ったらもう一度子どもの話を聞こうと思う。

### 大会の持ち方について

○半分強制されてきたが、大変ためになる講演や学校の取り組みを聴かせて頂いて良かった。

○初めて参加したが、素晴らしい音楽を聴くことができたり、テーマも興味深かった。

### 意見

○単Pレベルでは、県Pは遠い存在。近い存在になる試みを。

○このような大会があることを、参加して初めて知った。実践発表など聴くことができた良かったので、全PTAにフィードバックできれば良いと思った。

○今後も続けてもらいたいが、このような大会があることをPTA役員に



さくらジュニアオーケストラ・アカデミーの心にしみる演奏♪



明橋先生の話に耳を傾ける参会者

なるまで知らなかった。もう少し早く開催のお知らせをしてほしい。

○今大会に参加して頂き、また一人お一人に気づきを持って頂けたようで、嬉しく思います。今後も、会員の皆様の子育て、親育ちに協力できますよう、努めて参ります。次年度は、甲賀市での開催を予定しています。ホームページ・チラシ等でご案内させていただきます。それぞれのPTA参加事業に加えて頂きましたら、幸甚に存じます。

### 平成24年度

## 受賞に輝くかたがた

(敬称略)

◎優良PTA文部科学大臣表彰  
竜王町立竜王西幼稚園PTA  
竜王町立竜王西小学校PTA  
長浜市立西中学校PTA

◎日本PTA全国協議会会長表彰  
(団体の部)

高島市立新旭南小学校PTA  
東近江市PTA連絡協議会

(個人の部)

近江八幡市 辻 太喜男  
高島市 梅村 頼子  
甲良町 西山 正道



◎近畿ブロックPTA協議会会長表彰  
(団体の部)

長浜市 長浜市PTA連絡協議会  
東近江市 東近江市立湖東第二小学校PTA

(個人の部)

大津市 和田 光生  
大津市 廣瀬佳代子  
湖南市 角 彩代  
守山市 岩佐 和幸  
彦根市 武田 和男  
日野町 森岡 和代  
甲賀市 森岡 靖子



◎滋賀県PTA連絡協議会会長表彰  
(団体の部)

高島市立今津西小学校PTA



(個人の部)

大津市 和田 光生  
大津市 奥村 利樹  
高島市 早田 尚人  
長浜市 八田 万蔵  
彦根市 安澤 勝  
野洲市 吉田 守男  
草津市 梅田 和彦

大津市 廣瀬佳代子  
高島市 鈴木 正人  
長浜市 片桐 正治  
長浜市 内藤 正晴  
近江八幡市 喜島 正三  
草津市 菅野 泰子



## 育てたいのは 子どもたちの未来。

「高校生国際交流プログラム」協賛  
「いじめ防止標語コンテスト」開催  
「エコキャップ推進協会」への支援  
「がん健診企業アクション」への参加

ほか

AIU保険会社  
五イアイユー インシュアランス カンパニー

神戸支店  
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-3-3  
問合せ: 078-360-2401 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)



東京海上日動は、1999年度からNGOをパートナーに、地球温暖化の抑制に役立つマングローブの植林をはじめました。それから10年、「海の森」は5,000haを超える面積にひろがりました。マングローブ「海の森」づくりは、東京海上日動が地球の未来にかけた保険。100年間植林を継続することを目指し、取り組んでまいります。  
\*「マングローブ植林行動計画」「財団法人オイスカ」(1999年度～)「国際マングローブ生態系協会」(2009年度～)

東京海上日動火災保険株式会社

東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050

☎ 0120-868-100 午前9時～午後8時(平日、土日祝とも) <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

「子育てを通して見る人権」を今年度のテーマとして、各学年向けの人権のお話を聞きました。また、保護者によるディスカッションもあり、身近な差別に気づくための啓発活動に力を入れてきました。

人権研修会で、園長先生の「子どもの人権を考えた接し方ができているか?」という投げかけに、「ハッ」と気づくところも多かった。という声がありました。また、野洲小学校長西村先生の講演会では、部落差別発祥における単純な誤解や無理解がたくさんあることを、知ることができました。他にも幼稚園の先生方による人権寸劇を

## 「スマイルアップ!」

野洲市立野洲幼稚園PTA

親子で鑑賞するなど、身近にあるいじめに繋がるような行為や言動について、考える機会を幼稚園全体でもちました。

身近にあるいじめや差別をなくすためには、私たち一人一人が日頃から人権について学び伝え、意識していくことが大切で、これからもその気持ちをもち続け、磨き続けて「スマイルアップ」に繋げていこうと、心から感じる一年でした。



## いじめがなくなことを願って

「“あなたが大切だ”と誰かに言ってもらえるだけで、生きてゆける。存在を認められるだけで、人は強くなれる。」とノートルダム清心女子大学の渡辺和子さんが、著書で述べておられます。かけがえのない子どもたちに、伝えていきたいものです。

## 人権・同和教育講座

草津市立矢倉小学校PTA

講師に石井真澄さん、千晶さんご夫妻をお迎えし、「部落差別と向き合う私たち」というテーマでお話ししていただきました。教職員と保護者、約40名の参加者がありました。

被差別部落出身である千晶さんが受けられた偏見・差別や自身の人権活動への取り組み、真澄さんと被差別部落出身者との交際に対する両親との衝突などを話していただきました。

そして、真澄さんの強い思いがご両親の気持ちを変えたこと、千晶さんが辛い思いに負けることなく前向きでいられたのは、大切な

仲間の支えがあったことを教えていただきました。現代では差別がなくなったように感じますが、差別が見えにくくなるだけで、知らずに大人になるよりも正しく知ることの大切さも教えていただきました。他人事ではなくまずは自分が変わる。少しでも差別がなくなるように努力したいと思いました。



## 「絆」今私たちにできること

守山市立守山中学校PTA

昨年10月2日、NPO法人日本レスキュー協会の方をお招きし、レスキュー犬・セラピー犬同伴の講演会を開催しました。

「聞く・見る・触れる」ことによって、一昨年の東日本大震災を振り返り、命の大切さや、「今私たちにできることは何か」を親子で考えました。

まず、講演を伺い、次に犬たちによるデモンストレーション。災害で人間が瓦礫の傍まで近寄れないときに活躍するレスキュー犬が、木箱に隠れた人を探したり、遠隔操作で指示を受けたりして人の呼吸を察知して知らせます。



## 早寝・早起き朝ごはん

### 平成24年度「早寝早起き朝ごはん」県民運動ポスターコンクール入賞者

#### < 滋賀県教育長賞 >

草津市立笠縫小学校 5年生 菱沼 祐那さん  
東近江市立聖徳中学校 1年生 鈴木 麻紀さん

#### < 滋賀県 PTA 連絡協議会会長賞 >

大津市立日吉台小学校 3年生 廣瀬 太陽さん  
彦根市立南中学校 3年生 佐々木梨嵯さん

#### < 滋賀県青少年育成県民会議会長賞 >

甲賀市立甲南中部小学校 1年生 西田 里彩さん  
彦根市立鳥居本中学校 3年生 小野 瑞季さん



▲廣瀬 太陽さんの作品



▲佐々木 梨嵯さんの作品



## 心のきずな61キャンペーン

～守ろう 子どもたちの笑顔と未来～

皆さまには温かいご支援を頂き、感謝しております。しかしながら、まだまだ支援を必要としている子らがいます。より一層のご支援を頂けますよう、よろしく願いいたします。

『届けてください被災地に! 進学の夢と希望を!』

### 心のきずなキャンペーン 募金活動展開中

☆募集期間 平成24年～28年

ご協力ありがとうございます。  
今後ともよろしくお願いいたします。

滋賀県PTA募金総額 4,188,289円  
(平成25年1月31日現在)

言葉と言葉をふつつける  
手と手をたずさえ  
手と手をつなぐ  
人と人を結ぶ  
大きな和となり  
こころをつなぐ縁となる

## みずの輪

### \*\*\* PTA安全会より \*\*\*

PTA行事参加中に事故が起こったら…  
各単位PTAを通じ下記へご連絡ください。

取扱代理店 (株)アーキ・スリー・インターナショナル

〒520-0051 大津市梅林 1-3-25 大津駅前 1st森田ビル 4F  
TEL(077)527-6823 FAX(0120)527-606  
(平日:9時30分～17時まで)

滋賀県PTAホームページ <http://www.shiga-pta.jp/>

引受保険会社

**AIU保険会社**

エイアイユー インシュアランス カンパニー